

各 位

平成29年6月1日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



野草園の「クリンソウの谷」とクリンソウ

クリンソウ(サクラソウ科)

湿り気のあるところが大好きな多年草です。花が開く頃に花茎はぐんと伸び、日本のサクラソウのなかまでは、最も大きいようです。寺院の塔の請花と水煙の間にある九輪にたとえて名づけられました。紅紫色の花を2～7段輪状に多数つけます。

日中の気温が25度を超えるようになり、まさに初夏の風情となりました。野草園の植物たちは様々な鮮やかな花を咲かせ、ますます緑の色を濃くしています。昨年よりは10日ほど季節が遅れているようですが、園内の南西側にある「クリンソウの谷」では紅紫色のクリンソウの花が咲き始め、近くには同じ仲間のサクラソウも咲き、谷一面がピンク色の花でいっぱいになります。6月18日(日)までは休園日なしで連日開園していますので、皆さまそれぞれに都合の良い時間を見つけて、自然散策にお出かけ下さい。忙しい日常を忘れ、ゆったりとした時の流れを楽しむのもいいものですよ。

※開園時間延長のお知らせ 6月～8月は、午前9時から午後6時まで開園します。

(入園は、午後5時まで)

6月上旬の野草園

- ◆【写真撮影会】 6/3(土) 10時～12時 講師：山形市写真連盟会長 軽部 治悠紀 氏
- 内容 一眼レフカメラの基本的な撮影方法を学び、実際に撮影する。
 - 場所 野草園内
 - 対象 一眼レフカメラ初心者 先着15名 ○参加費 資料代100円(入園料別)
 - 申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆【山野草の育て方教室】 6/13(火) 10時~12時 講師:蔵王園芸店 佐藤 祐一氏

- 内容 食べられる斑入り山野草の鉢植え (ギョウジャニンニク、アマトコロ、ユキザサ、シトケ)
- 場所 野草園自然学習センターピロティ
- 対象 先着13名 ○参加費 2,000円(材料代込、入園料別)
- 申込み 電話で野草園まで TEL023-634-4120

◆◆◆【ガイドウォーキング】◆◆◆

- 日時 6/3(土) 4(日) 10(土) 11(日) 18(日) 25(日)
①回目 10:00~11:00 ②11:00~12:00 ③13:00~14:00 ④14:00~15:00
- 場所 野草園内全域
- 内容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策します。申し込み不要、その場で参加できます。もちろん無料です。見どころの花の場所に案内し、その花の説明もしてもらえます。

★★【ホタル観察会】 6/23(金) 24(土) 25(日) 各日観察 19:30~20:30
6/30(金) 7/1(土) 2(日) (受付 19:00~19:30)

- 内容 野草園内のゲンジボタルとヘイケボタルの観察 小雨決行、悪天候時は中止。
- 服装 長袖、長ズボン、雨具
- 参加費 無料(大人は入園料が必要です)
- 申込み 各日先着80名 電話で野草園まで TEL023-634-4120

★★【第23回写真コンテスト入賞作品展】 …… 開催中 (5/27(土)~7/2(日))

- 内容 28年度(昨年度)の写真コンテストで入賞した作品を展示
- 場所 野草園自然学習センター内

野草園で6月前半に見られる花たち



コンロンソウ(アブラナ科)

北海道~九州の山地谷沿いの湿地に生える多年草。高さ30~50cm。葉は長柄がある奇数羽状複葉。先がとがり、鋸歯があります。茎上部に短い総状花序をつけ、白色で直径7~10mmの4弁花。雄しべ6個。和名は、中国の崑崙山に積もる雪をイメージしたのではないかとされています。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面にだし、黄色の花を1個開きます。花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。柱頭盤が赤い点の特徴です。



マイヅルソウ(キジカクシ科)

山地から亜高山帯の針葉樹林内に生える多年草で、葉の形は心形で先が尖り基部が深く葉脈が目立ちます。茎はまっすぐでなく、くの字に曲がりその先に白い小花の総状花序をつけます。大きく広げた2枚の葉の様子を羽に、総状花序を頭に見立てて、鶴が舞う姿に例え名がつけられたようです。



キンギンボク(スイカズラ科)

山地に自生する落葉低木で、観賞用としてもよく植えられています。葉のつけ根から短柄を出して2個ずつ花をつけます。はじめ白色でのちに黄色になる、この花の入り交じる様子を銀と金にたとえたようです。果実は球形で赤く熟し2個接着して瓢箪状になるため、ヒョウタンボクの名もあります。果実は猛毒です。



トチノキ(ムクロジ科)

落葉高木でおもに冷温帯域の山地に生育し、高さ30mほどの巨木に成長することもあります。葉は大きく、5~7つに掌状に分かれており、天狗の団扇と呼ばれたいなる形をしています。白い大型の房状花序をつけます。花はとても甘い香りがし、果実のトチの実は、餅に使われたり、トチ笛などの工作の材料となります。



ホウチャクソウ(イヌサフラン科)

日本や中国の雑木林などの樹間のひらけた場所に群生する多年草。初夏に地味ですが白から緑へのグラデーションが美しい花をつけます。宝鐸(ホウチャク)とは寺院建築物の軒先の四隅に吊り下げられた飾りで、花が垂れ下がって咲く姿がこの宝鐸に似ることによります。摘んだときに独特の臭気を発します。



サラサドウダン(ツツジ科)

深山の林内や林縁、岩場に自生し、ドウダンツツジの仲間では最も北方まで分布するそうです。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。この更紗のような模様が名の由来になっているようです。白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならないで先が広がり鐘形のところが違うようです。



ミヤマガマズミ(レンブクソウ科)

北海道～九州の山地に生える高さ2～3mの落葉低木。葉の鋸齒は片側16前後。表面は普通無毛。裏面の脈腋に毛束。葉柄は長さ1～2cm。葉柄や花序の柄に長毛がまばらに生えます。枝の先に散房花序をだし、白い花を多数開きます。先は5裂して広がっています。核果は卵球形で9～10月に赤く熟し、酸っぱいのですが、食べられます。



ニッコウキスゲ(ススキノキ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年生草で、草原に群生することがよくあります。花茎の先にオレンジ色の花を3～4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ1日花で、ろうと状の鐘形です。若葉やつぼみはおいしいらしく、カモシカも大好きです。



ホタルカズラ(ムラサキ科)

乾いた草地や林縁に生える多年草です。小さい花ですが、ムラサキ科の中では一番大きいそうです。蛍光を発しているような青い色は遠くからでも目立ちます。そこから、ホタルの名がつけました。花が咲いている時はカズラの意味はわかりませんが、花後に根もとからつがでてきて新しい株をつくります。それで、この名があります。



ミヤマオダマキ(キンポウゲ科)

中部地方以北に分布する多年生の高山植物。園芸品種の改良型が山野草として栽培されています。茎は高さ10-25cmほどで、先端に数輪の花をうつむき加減につけます。萼片は広卵形で傘状に開き、花弁は円筒形にまとまってつき、先端はやや白っぽく、基部からは萼の間を抜けて距がのびています。



キタマムシグサ(サトイモ科)

高原～山地の林床などに普通に生える高さ30～80cmの多年草。仏炎苞の脰部がよりヘルメット状に膨らみ、白条が広がって半透明になるという形質があります。本園では、各所の林の中に生えているので、注意して見ると誰でも、「蛇に似た姿」を見つけることができます。



アカモノ(ツツジ科)

北海道、本州の日本海側の低山帯などに生える常緑小低木。高さは10~30cm。花は釣鐘形、縁が小さく裂け、軽くカールしています。萼があざやかな赤色をしています。花後に萼が成長して果実を包み込み、赤色の偽果となります。この実は甘く食べられます。名前は赤い実から「アカモモ」と呼ばれ、これが訛ったものと言われます。



サワオグルマ(キク科)

本州~九州の湿原や休耕田などの湿地に生える多年草。茎が太く中空で、50~80cm。葉はへら状披針形ではじめはクモ毛が密生します。茎葉は卵状披針形で基部は茎を抱きます。茎の先端に直径3~4cmの黄色い頭花を散房状に多数つけます。



センダイハギ(マメ科)

海岸に多いマメ科の多年草。和名は歌舞伎の《伽羅(めいぼく)先代萩》から北地仙台に転じて、仙台萩の意と言われます。茎は直立し高さ40~80cm、葉は掌状に3枚の小葉をつけ、基部に大型の托葉があります。茎の先に蝶形の花を多数つけて総状花序をつくります。



オドリコソウ(シソ科)

ヨーロッパ原産のヒメオドリコソウにおされて存在感が薄れています。東アジアの温帯に広く分布し山野や道ばたの半日陰に生える多年草です。葉のわきに淡紅紫色または白色の花を数個輪生します。名は花の形が笠をかぶった踊り子の姿に似ていることによるようです。よく見るほどに踊り子を連想させます。



チョウジソウ(キョウチクトウ科)

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して丸く上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。名は丁字草で花の形がチョウジに似た草だからです。



レンゲツツジ(ツツジ科)

名は、つぼみの様子を蓮華（ハスの花）に見たてたようです。葉の展開と同時に朱橙色の花が開花します。1個の花芽から2～8個の花が咲き、日本のツツジの中ではもっとも大きいそうです。花びらの上側に斑点があるのと、葉の表にしわがあるのが特徴の1つです。有毒植物で家畜が食べないので牧場などに多くあります。



エビネ(ラン科)

山地の林中に生える多年生草本です。花は、数枚束生した葉の間からでた花茎に10個内外つけます。外側の花びらは紫褐色で内側の花びらは白っぽい色をしています。園芸品種にはない素朴な味わいがあります。名は、数珠状に連なった地下茎が海老に似ているからです。エビネの間には花が美しいので観賞用に栽培されます。



ヒメカイウ(サトイモ科)

北海道～中部地方、海外では、北半球に広く分布。低地や山地の水湿地に生える多年草。仏炎苞（サトイモ科の肉穂花序に見られる花序を被う大形の苞）は白く、幅の広い卵形です。花序には花被はありません。花序のほとんどが両性花で、先だけに雄性花をつけます。水芭蕉（ミズバショウ）を小型にしたような花です。



ノビネチドリ(ラン科)

高原の湿り気のある草地などに生える多年草。ラン科の中では比較的普通に見られます。よく似たハクサンチドリやテガタチドリは葉の縁がまっすぐですが、本種は波打つのがポイントです。葉が大きくて長く、やや茎を抱き重なり合うようにつく事も見分ける目安になります。花の形が飛ぶ千鳥の姿に見えることから和名です。



ツクバネウツギ(スイカズラ科)

萼の形が羽根突きの羽に似ていることから名づけられました。枝先に二個ずつ花を咲かせますが、漏斗型の花は長さが2～3cm、下唇の内側に橙色の網状紋がるのが特徴です。上唇は2裂、下唇は3裂しています。